

挫折から生まれた「母娘骨折予防」ビジネス

－ 骨折による寝たきりゼロをめざして －

氏 名 福田 文雄

指導教員 松永 裕己

要旨

日本における65歳以上の高齢化率は29.1%に達し、特に北九州市では31.2%という高い水準を示している。このような状況において、高齢者の骨折や転倒が深刻な健康問題となり、特に大腿骨近位部骨折は1年後の死亡率が約10%と報告されており、骨折による寝たきり状態の予防が重要な課題となっている。骨粗鬆症の早期発見と治療が予防の鍵を握るが、北九州市における骨粗鬆症検診率は1.1%で、全国平均の5%を大きく下回っており、この問題に対処する必要がある。

この課題に対応するため、筆者は新規ビジネス「北九州骨プロジェクト」を立案した。これは、人工知能(AI)を活用して胸部X線画像から骨密度を推定するスクリーニング手法の導入を目指したもので、実現に向けてステークホルダーとの協議を重ねた。しかし、自治体の制度的な制約や協働企業の倒産、国の制度変更といった外部要因により、計画は修正を余儀なくされた。そこで「エフェクチュエーション」的アプローチを採用することによって、「母娘骨折予防」を軸にしたビジネスモデルへの転換を図った。これは母親の骨折を契機に実娘世代に対する骨粗鬆症リスクへの関心を喚起し、検診の受診を促進することを目的としている。ここでは行動経済学におけるナッジ理論を活用し、スマートフォン世代を主要なターゲットとしたデジタルアプローチを採用している。具体的には、医師である筆者が立ち上げた株式会社 Medical Dream の運営するウェブサイトを通じて骨粗鬆症の自己評価ツールを提供し、これに基づいて医療機関での二次検診受診を促す行動変容を目指している。実際に行った市場調査の結果、検診受診に対する障壁として「時間がない」「他の検査と同時に受けたい」といった問題が浮き彫りになり、受診の利便性を高めるとともに、検診の重要性を啓発する活動が喫緊の課題であることが明確になった。

本プロジェクトの最終的な目標は、骨粗鬆症スクリーニングによる新規患者の発見と、大腿骨近位部骨折の予防を通じて医療費および介護費用の削減に寄与することである。また、医学的研究と行動経済学的研究を統合し、地域特有の健康課題に対する解決策を提示することを通じて、他地域や海外への展開も視野に入れている。新規ビジネスによる「骨折による寝たきりゼロ」を実現するため、北九州を拠点とするスモールスタートを基盤に、全国のおよびグローバルな事業展開を目指している。